

復興支援フォーラムニュース No.19

(URL <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

福島県における精神科医療・保健・福祉の現状と課題

大川貴子(福島医大看護学部精神看護学担当)

<福島県相双(相馬・双葉)地域の精神科医療の現状>

* 福島県精神科病院協会会員配置図及び原発避難区域

【相馬市】【新地町】 精神科病院：なし 精神科クリニック：なし

【南相馬市】 精神科病院：2ヶ所 精神科クリニック：3ヶ所

相双地域における福島県立医科大学 心のケアチームの活動

医療活動1： 外来

公立相馬総合病院における臨時精神科外来

* 臨時精神科外来の受診者数

* 臨時精神科外来受診患者の疾患名

* 臨時精神科外来受診患者の年齢

医療活動2： 訪問看護・往診

保健活動1： 「ちょっとここで一休みの会」

相馬市保健センターにて(5/21～)

保健活動2： 仮設住宅での展開(6/30～ 2年間継続)

保健活動3： 職員のメンタルケア

* 職員の心の健診/相談(全職員対象)

* 職員のカウンセリング(希望者・要フォロー者)

<職員の心の健診/相談の実際>

1. 問診表への記入

2. 精神科医/臨床心理士による面接

3. 面接結果を本人にフィードバック(3段階評価)

保健活動4： 在宅訪問(保健師との連携により実施)

* 治療につなげるための訪問(未治療の人 治療中断の人)

心のケアチームへの相談件数

心のケアチームの支援を要する方

- * 震災以前より、精神疾患を有する方
- * 震災以前は、ギリギリなんとか生活していた方
- * 震災以前は、健康な生活を送っていた方

災害前の脆弱性 × 災害曝露 = 災害後の精神病理

災害後には、特にその出来事の結果に高度に曝露された人、
又は過去に精神的な問題や個人的なトラウマを抱えているなど
すでに脆弱性がある人は、心理学的な問題のリスクが高くなることもある。

【Craig L. Katz】

心のケアチームへ支援に来て下さった方々

約450名

相双地域において、新たな精神科医療保健福祉システムをつくる

6月12日「相双地区の新しい精神科医療サービスシステムの構築を考える会」開催

「相双に新しい精神科医療・保健・福祉システムをつくる会」発足

8月6日：「つくる会」第2回会合開催

→「精神科クリニック」及び「相馬広域こころのケアセンター：なごみ」
の開設を決定

*「ケアセンター」はNPO法人にて運営する方針

9月25日：NPO法人「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」

設立総会を開催

「つくる会」第3回会合開催

11月29日：「NPO法人」認証（理事長：福島県立医大精神医学講座丹羽真一教授）

12月 7日：「NPO法人」登記

12月10日：「精神科診療所開設届」保健所へ提出

1月 8日：「NPO法人」発足記念シンポジウム開催

1月 9日：「NPO法人」発足記念式典開催

1月10日：「相馬広域こころのケアセンターなごみ」

「メンタルクリニックなごみ」開所

現在、起きていること

- * 子どもたち：身体を動かしながら遊ぶことへの制約がもたらすストレス
- * 大人たち：失職・孤独・ストレス等に伴う酒量の増加
- * 高齢の人たち：活動性の低下に伴う認知機能の低下
- * “居住地”にまつわる問題
 - ・避難区域の再編などに伴い、帰還するかどうかを家族内で調整する際の葛藤→ストレス
 - ・県外などから帰還した際の“原発に近づいてしまった”という不安

必要とされていること

こころのケアを要する人のもとに、ケアが提供されやすくすること

- *ニーズの把握
- *支援を求めやすい環境づくり

このプロセスに関わりながら、今、思うこと

自転車操業の日々

ニーズの把握 支援活動の把握 新たな企画

被災地の支援を行う中で・・・

これまで放置されてきた精神医学的及び心理・社会的問題に取り組む機会となる。

【Craig L. Katz】

NPO法人として活動することで・・・

- *小回りがきく
- *維持させていくことは大変である

残されている大きな課題

*相双地域の精神科病床に入院していた患者の転院先

*福島県浜通りに戻ってきて頂くためには・・・

患者さんの状態に応じた受け入れ先の準備

*精神障害者が地域で生活をするために

～さらなる整備が必要なこと～

*様々な健康状態の方へのアプローチ

- ・大きな問題なく生活が営めている人
- ・健康問題を有する人
- ・障がいと共に生活している人

(以上は報告の際のパワーポイントの概要をまとめたものです。<文責・今野>)

第16回ふくしま復興支援フォーラム（7月25日）のご意見等

（「震災体験から考える自治制度の課題 ―自治体連携から「仮の町」まで―

＜今井照氏＞）

- ★ 今回も大変刺激的で興味深い問題が出され、個別事例のことも含めて、大変勉強になった。あと2～3回は議論が必要と感じた。(S. I)
- ★ 大変参考になった。(K. F)
- ★ 仮の町の重要性、意識について、世代間によっても認識が違うと思います。どちらかというと高齢者対策になってくるのではないのでしょうか。(T. H)
- ★ 「仮の町」にこめた社会学の背景があることを知りました。これからの課題として、町や村のあり方を考え、手を打ち、実現していく上で大切なことと思いました。(J. M)
- ★ 仮設住宅に避難している要介護者が、仮設住宅が存在する市の地域密着型サービスを提供する事業所の利用について制限されている現実がある。（**市が他の町の避難者を制限している）。今井氏が提唱する、重層的な市民権を保障するうえで、このような具体的現実を調査し、是正する必要がある。
- ★ 制度論的なことに無知で、とても勉強になりました。「仮の町」では、人と人とのつながりを考えることの大切さを理解しました。(K. Y)

~~~~~

### 【第18回 ふくしま復興支援フォーラム】

日 時        8月30日（木）        18時30分～20時30分（予定）  
会 場        福島市アクティブシニアセンター（AOZ）大活動室1  
報告者        大宮勇雄 氏（福島大学教授）  
テーマ        「放射能災害下の子どもたち」

~~~~~